

Japan Virtual Client Computing (Japanese Version)

AN IDC CONTINUOUS INTELLIGENCE SERVICE

Virtual Client Computing (VCC) は、仮想化ソフトウェア技術とエンドポイントデバイスへのデリバリーを融合させたコンピューティングモデルです。ソリューションベンダーとサービスプロバイダーは、この成長市場の重要性と機会を認識しており、市場、技術、およびエンドユーザの傾向を見ています。IDC Japan 年間情報提供サービス

「Japan Virtual Client Computing (Japanese Version)」は、IT サプライヤーが戦略上重要な判断を下せるように必要な情報を提供します。2020 年は、IDC が開発したフレームワーク MarketScape をベースに、VCC の市場動向およびベンダーポジショニングについて考察します。

Markets and Subjects Analyzed

- シンククライアント出荷台数ベースベンダーシェア、シンククライアント方式別シェア、OS 別シェア
- クライアント仮想化ソフトウェア ライセンスベースベンダーシェア、市場規模
- クライアント仮想化ソリューション 金額ベース市場規模
- クライアント仮想化率予測
- クライアント仮想化ソフトウェア ライセンスベース市場規模予測
- クライアント仮想化ソリューション 金額ベース市場規模予測

Core Research

- 国内クライアント仮想化市場実績
- 国内クライアント仮想化市場予測
- 国内クライアント仮想化市場 ユーザー動向分析調査
- IDC MarketScape
- IDC Innovators

上記リサーチは市場環境などの変化に応じて変更される可能性があります。発行レポートをご覧になりたい場合は以下 Web サイトをご参照ください。: [Japan Virtual Client Computing \(Japanese Version\)](#).

Key Questions Answered

- ワークスタイル変革、BYOD は、クライアント仮想化市場を牽引する促進要因のひとつになりうるのか？
- ワークスペースは新たなキーテクノロジーになるのか？
- クライアント仮想化の投資対効果 (ROI) は向上しているのか？
- 国内クライアント仮想化市場における成功要因は？
- 産業分野別で最もシェアの高い業種および導入の進む分野は？
- オンプレミスと仮想デスクトップサービス (DaaS) の割合は、今後どのように変化していくのか？またベンダー別成功要因は？
- 国内クライアント仮想市場でワークロード別、あるいは適用部門、範囲などは今後どのように拡大していくのか？
- デジタルトランスフォーメーションにおいて、クライアント仮想化はどのような影響をうけるのか？またそこで台頭してくるテクノロジーやビジネスモデル、およびベンダーは？

Companies Analyzed

IDC では、次のベンダーの企業戦略、競合状況などの比較/分析を行います (アルファベット順、50 音順)。

Atrust、AWS、DDS、Dell EMC、Ericom、IBM、JB アドバンスト・テクノロジー、Lakeside、NComputing、NEC、Numecent、NTT アイティ、NTT コミュニケーションズ、NTT データ、NTT ネオメイト、Rockwell、SCSK、VXL、アシスト、アセンテック、伊藤忠テクノソリューションズ、インターネットイニシアティブ、ヴィエムウェア、エヌビディア、兼松エレクトロニクス、グーグル、シトリックス・システムズ、シマンテック、ジャパンスシステム、新日鉄住金ソリューションズ、ソフトバンク、東芝、ドコモシステムズ、日商エレクトロニクス、日本 HP、日本ビューレット・パッカード、日本ユニシス、ニュータニクス、ネットワンシステムズ、日立製作所、日立ソリューションズ、ピュア・ストレージ、パラレルス、富士通、マイクロソフト、マカフィー、ミントウェブ、その他